

住宅地にたたずむ幕屋としての大きな家 —カトリック菊名教会—

正会員 ○村上晶子

* 明星大学教授／村上晶子アトリエ&パートナーズ代表

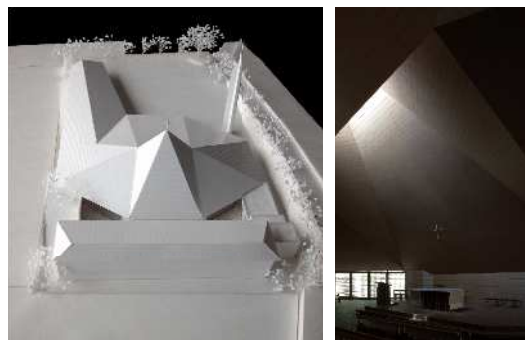
Kikuna Catholic Church

○ MURAKAMI Akiko*

* Prof.Meisei Univ./Akiko Murakami Atelier And Partners CEO

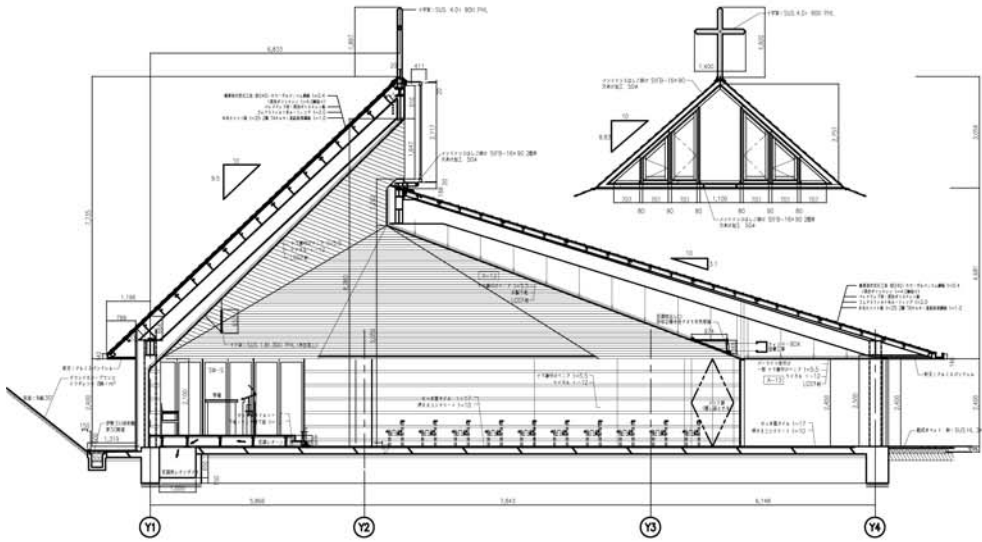


キリスト教の教会は神の民の集まるところが由縁であり、そのなりたちは大きな家そのものである。なかでもカトリック教会は、歴史を紐解くと社会の中での成立背景が建築の形態を決定してきた。日本においても長崎の大浦天主堂などに代表されるパリミッシヨンの教会堂は、禁教からの解放の宣言がその姿を形成した。そして、20世紀戦後における第二バチカン公会議に於いて教会の現代化、文化の受容化がいわれてから50年、日本のカトリック教会におかれてもその変化の熟成を迎えている。この菊名教会は、この地に教会が建設されて50年がたち、建物老朽化にともなう建替え計画として指名設計競技から始まった。周囲は閑静な住宅街の中にありながら、存在を主張しすぎないよう庇の高さを抑え教会のボリュームを和らげている。このことは、日本人の感性への受容として、現代日本の中におかれたキリスト教会のありようとしても重要なこととして捉えた。中庭空間は、親しみやすく住宅地の中にある誰もが集えるポケットパークとなる場の創出を目指した。あくまで大きな家、誰でも訪れやすい深い軒下空間をもつみんなの家なのである。屋根の形状は変形多角形の鉄骨造で組み、砂漠の民の幕屋が大地に降り立ったイメージを形成している。外へは優しくボリュームを抑えつつ、内部空間は、南東に向けた高窓から聖堂にスタンドグラス越しに陽の光が射し込み、主日のミサの時には内陣に豊かな光が降り注ぐ聖堂空間をイメージした。また、限られたボリュームに平面的な奥行き感を与えるため、内陣北側の広場を緑化し外の内陣としてしつらえた。格子越しに北側の安定した光環境の緑を取り込むことで、聖堂に豊かな拡がりを感じられる空間を創ることを目指している。

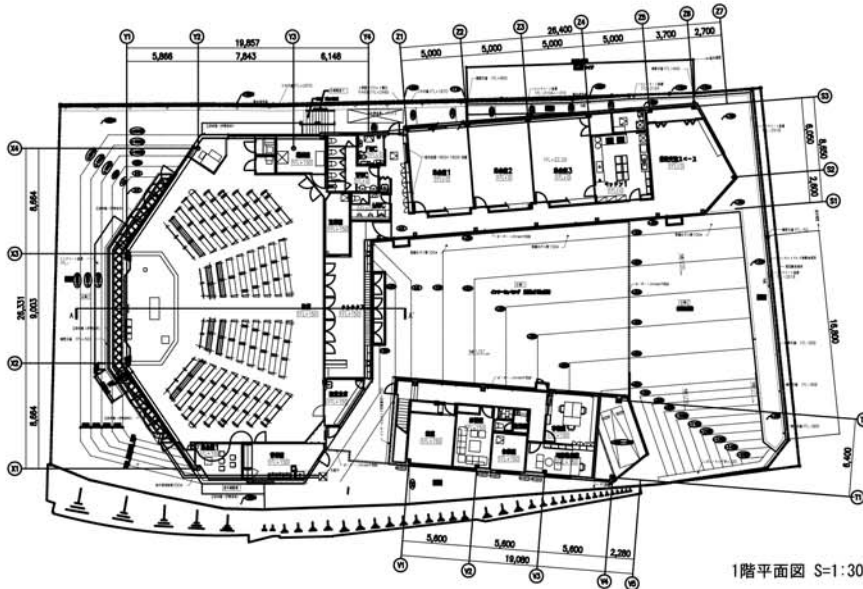


所在地：
 主な用途：教会
 敷地面積：1928㎡
 建築面積：950㎡
 延床面積：997㎡
 キーワード：カトリック教会、共同体、文化の受容

Location :Kanagawa
 Main Use : Church
 Site Area :3000㎡
 Building Floor Area :950㎡
 Total Floor Area :997㎡
 Keywords :catholic church,community ,inculturation



A-A' 断面詳細図 S=1:100



1階平面図 S=1:300

